

特集 / 国際ガラスデータ・ベース INTERGLAD



国際ガラスデータベースのサービス開始に際して

社団法人ニューガラスフォーラム会長
日本板硝子株式会社取締役社長

中島 達二



昨年5月、古本前会長からニューガラスフォーラムの会長のバトンタッチを受けた時の最大の懸案はこの国際ガラスデータベースの構築でありました。率直なところ大変なことを引き受けてしまったと思いましたが、これが今回計画通りに完成の運びとなり、肩の荷が一つ降りたような気持ちで、ほっとしているのが実感であります。

今更申し上げる迄も無くこのデータベースは古本前会長の並々ならぬ熱意と強いリーダーシップにより実現したもので、そのニックネームである“INTERGLAD”はINTERNATIONAL GLASS DATABASEを略したものであります。このニックネームは日本が広く世界のガラス産業の発展に貢献するようにと前会長が自ら命名されたと伺っております。

6年前、当フォーラムが設立された時からの通産省の強いご支援や京都大学の作花教授、東京大学の安井教授等の親身なご指導と、古本前会長の指導の下、理事会社各位のご理解



と、データベース構築委員会の皆様方の熱意とがここに見事に実を結んだものであります。関係者のご好意とご努力に対して会長としまして深くお礼申し上げます。

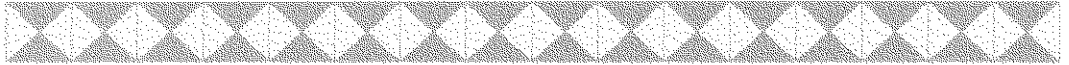
この事業を行うに当たっては、会員の中の内外のガラス関連企業が一体となってカタログデータの提供や膨大な量のガラス関連の学術文献からのデータの抽出に奉仕して頂きました。この奉仕作業は実質的に大変お金の掛ったものであったと存じます。わが国を取り巻く国際的な環境が厳しさを増している折りから、この様な実際の国際協力の中でこのデータベースが完成したことは誠に意義が深いと考えております。

このデータベースはパソコンとコンパクトディスクを組合わせた方式を採用しております。パソコンの短所であった検索スピードは近年著しく改善されていますが、今回はソフトの面でもコンパクトディスクの記憶容量が大きいことを活用してインデックスファイル方式（予想される検索利用ニーズに従い前もって大型コンピュータを使ってデータ処理をしたものを記憶させてある）採用することで非常に早く、使い易くなっております。

この方式はデータ処理をお願いした大日本印刷さんが開発された方法で、私共のデータベースが初めての本格的な応用だと聞いております。ご提案を受けたときは若干の不安があったようですが、最新の技術成果を採用させて頂き本当によかったと考えております。同時に作業スケジュールの面でも大変ご無理なお願いをしたのですが、計画に従って大変立派な仕事をして頂きました。“INTERGLAD”はこの様な多くの会員企業のご協力によって出来たわけで、特に多大の負担をして頂いた旭硝子(株)及び大日本印刷(株)には重ねて深く感謝申し上げます次第であります。

昨年12月に当フォーラムが開催した国際合同研究会で、ガラス物性データの収集と評価において世界の第1人者であるソ連科学アカデミーのマズーリン教授に講演をお願い致しました。その折りに教授と親しく懇談する機会があり、“INTERGLAD”についても見解を伺いました。教授は驚くほど“INTERGLAD”のことをよく知っておられ、種々アドバイスを頂きましたが、少しはお世辞もあったかとは思いますが、「必ずこれは世界のガラス研究者や利用者にとって不可欠なツールになるだろう」と、大変高く評価して頂き意を強く致しました。

さてこうした多数の方々の献身的な努力によって誕生したデータベースも、広く有効に活用されてこそその労苦が報われる事になります。まず、日本国内におきましては3月中旬から下旬にかけて東京と大阪でデモンストレーションを行いますので、会員諸氏には是



非これにご参加頂き、活用者になって頂きたいとお願い申し上げます。

国際的には、手初めとしてこの4月終りから5月初めにかけて米国のシンシチナ市で開催される米国セラミックス協会の展示会に出展し、続いてアルフレッド大学を訪問してデモンストレーションと意見交換の会を開催する計画を進めております。アルフレッド大学では早くからガラスのデータベースについて研究がなされており、有力な企業から研究者が集まっていると聞いております。各種の機会を通じて早い時期に“INTERGLAD”が世界各地に迎えられ、大きな情報の輪が広がることを期待してやみません。

このデータベースのもう一つの意義は、テクノロジートランスファのツールとして役立つという事であり、この様な技術情報の固りのようなものが出来たことで、恐らく発展途上国をも含めて世界各地でのガラス研究が可成り促進されるのではないのでしょうか。こうした観点から“INTERGLAD”の普及を図るために、会員の皆様方のご協力への期待も込めて入手し易い価格を設定しております。やがては日本の国際的な貢献の一例として十分PRの効果を発揮するのではないかと考えております。

終りに“INTERGLAD”の改定についてであります。これは2年毎に改定を予定しております。その際には更に内容を改善して行かねばなりません。第1にはデータの拡充でありましょう。最新データの補充のほか、応用物理やエレクトロニクス関連のデータ収集については、ガラス材料のこれら分野での利用の伸びを配慮して特に注力したいと思っております。又将来の問題として図形データの取扱いの問題があります。ガラスでは注目する物性を図形表示する事は古くからの手法であり、今回は技術的な問題もあり割愛しましたが、何れ取組まなければならないと考えております。

まだ紙面が少しありますので“INTERGLAD”に関連して気付いた事を申し上げます。このデータベースを構築するため内外の文献からデータを抽出しましたが、最も処理に難渋したのは物性データについて測定方法がまちまちである事でした。国際的に標準化されていないために折角のデータの客観的な比較が難しい訳で、特に日本のJOGIS、米国のASTM、西独のDIN等は使用される頻度が高いのでせめて相互の換算表を作る必要があるのでないか等が話題になっています。“INTERGLAD”が出来たことにより国際標準化の問題が世界のガラス業界・学界で話し合われるベースが出来たのではないのでしょうか。今後の諸氏の対応を期待致します。